

# 福島区歴史研究会 会報

## 第十二号

2019. 2

### 目次

消えた鷺洲二之橋	
— 淀川左岸線工事と最近の風景 —	末廣 訂
大正六年「東京倉庫」の大爆発	I
— 附・枚方市陸軍禁野弾薬庫爆発 —	岡倉光男
石畳が敷かれた長屋の物語	末廣 訂
福島区の近代から古代まで	服部静尚
福島まち歩きガイドブック作成の記録	8
・ ・ ・ ・ ・	
・ ・ ・ ・ ・	
・ ・ ・ ・ ・	
・ ・ ・ ・ ・	
福島地区「ふれあい祭り」ミニパネル展	萩田善彦
淀川大橋改修工事第二回見学会	12
— 大阪大空襲の銃弾痕を見る —	林 俊二
下半期の事業・下半期の活動記録	16



### 消えた鷺洲二之橋

#### — 淀川左岸線工事と最近の風景 —

末廣 訂

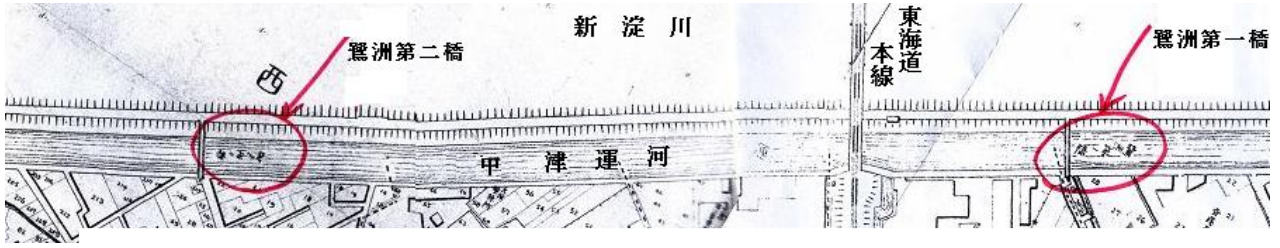
淀川の左岸に阪神高速道路ができる話を聞いてもう三・四十年にもなるが、最近にわかに工事が動き始めてきた。

二〇一八年一月初め、自宅ポストに一枚のチラシが入った。内容は大阪市建設局からの既設歩道橋（鷺洲二之橋）の撤去工事のお知らせである。

現在の淀川改良工事の時（明治三十一年から四十二年まで）に出てきた土砂や当時この近辺にあった池や井路川を埋め立てるために必要な土砂の運搬手段として、淀川に沿って中津運河ができた。

この運河を渡る歩道橋として、大正に入って阪神急行電鉄線と淀川大橋間には四か所の橋が架けられた。上流の中津から橋の名前は「中津一之橋」「中津二之橋」そして当時の鷺洲町にも二か所「鷺洲一之橋」と「鷺洲二之橋」が架けられた。当時としては鉄製の立派な橋であったと思うが、毎年実施される平成の花火が行われる日は淀川の堤防からの見物人が多く、老朽化と事故防止のため通行止めに使われている。現在この橋の名前が残っているのは、写真にあるように「鷺洲一之橋」に古ぼけた銘板、また最近に取り付けられた「中津二之橋」の銘板があり、さび付いているのが昔の面影を残している。

このチラシが入ってからしばらくして、工事用の鉄板塀が取り付けられ、現在は淀川大橋からJR神戸線の鉄橋まで進入禁止になり、淀



昭和4年の「鷺洲衛生組合管内地図」（『鷺洲衛生組合二十年史』1933 所収）より

老江地区に車が入り出すことである。

沿って下り、凸版印刷と旧ナニワスレート

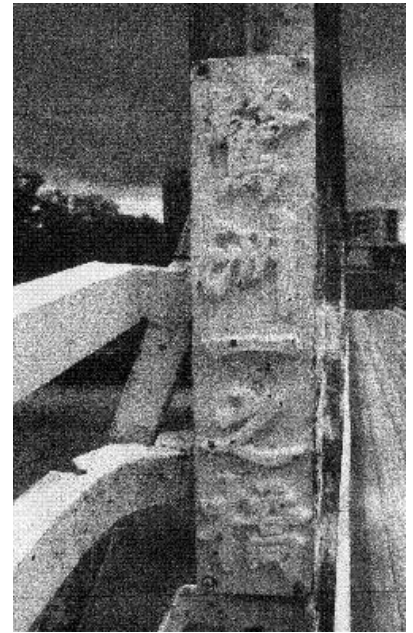
の間で従来の旧運河沿いの道と合流して海

柄東）といつて国道二号線・淀川大橋信号

交差点の淀川堤防から緩やかな坂を堤防に

沿って下り、凸版印刷と旧ナニワスレート

の間で従来の旧運河沿いの道と合流して海



「鷺洲一之橋」の銘板

や水害の時に危険であると反対している団体がある。

一方、左岸線の高速道路は、当初は堤防の上を走る計画であったが、

中津近辺のマンションから排気ガスと騒音で反対運動があり、地下ト

ンネル方式に変更された。現在はこのトンネル道路で工事が進んで

いるが、排気ガスの排気塔の場所や沿岸に沿ったトンネル道路は地震

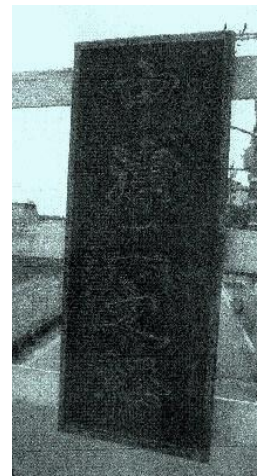
や水害の時に危険であると反対している団体がある。

新しい道路は従来国道から大きく迂回して旧北大阪線に来ていた

ものが、今回の淀川南岸線により近道となって通過でき、大型車が住

宅街を通り抜け大変危険な地域となることが予想される。

「中津二之橋」の銘板



撤去直前の「鷺洲二之橋」



### 新旧の中津運河の土手の風景

上の写真は昭和30年頃。

まだ川に水があり、舟が往来している。

下の写真は現在、

ビルが海老江の壁になっている。

上と下の写真の左上方に南桂寺の屋根とクスノキが垣間見える。

#### おわび 〈第11号訂正〉

「福島区内の「長屋」についての所見と現状  
長屋戸(軒)数調査」4p 「調査員」(太字が追加分)

大垣禎秀・荻田善彦・岡倉光男

**武田 博・西田修造**

林 俊二・西 保國・水谷浩一

末廣 訂・大平雄喜・大平幸子

まだ我々が小学校の頃までは、中津運河には水が流れており、時折川岸の工場に砂利や原材料を運ぶ船が往来していた。堤防の土手には草が生え、上から川に向かって木のソリに乗ってよく遊んだ記憶があるが、何時しか、土手はコンクリートになり、運河も埋められてしまった(昭和四七年度完了)。また、夏には当時のナニワスレート工場に来る砂利運搬船に乗せてもらい、近所の人と一緒に「水都祭」の花火見学や鷺洲二之橋から運河に飛び込んで遊んだのも遠い思い出で

ある。  
また、淀川に架かっている淀川大橋も昨年から三年の計画で橋の床版取替他工事中である。  
一〇年程前まではこの淀川の堤防から大阪市内が遠くまで見えたが、最近マンションやビルが乱立し、海老江を囲む大きな壁となつてしまい、風景が一変してしまった。まだまだこのあたりの風景が変化する過程に過ぎないのであるか。

# 大正六年「東京倉庫」の大爆発

## ―附・枚方市陸軍禁野弾薬庫爆発―

岡倉光男

戦時の外、平時でも時に爆発事故が起こる。

東電の福島原子炉水素爆発・花火の異常発火・天六地下鉄工事中のガス爆発・昨年一二月一六日の消臭スプレー缶一二〇本以上噴射による大火災発生等、往々にして大惨事となる。中でも危険物を保管された倉庫内の事故は、周辺に与える影響は甚大で計り知れない。

三年半前の平成二七年八月一二日、中国の天津市海新区てんしんで倉庫爆発事故が報道され、死亡者一六五名（消防隊員・警察官一一〇名含む）、行方不明八名、負傷者七九八名の大惨事が起こった。

天津港は港湾機能が麻痺、トヨタ・富士重・マツダに被害が及んだ。危険物管理の甘さが問われる事故であるが、似たような倉庫大爆発が、今から百年程前、日本、それも大阪市北区安井町（現在・福島区野田六丁目五の南側）の東京倉庫（現・三菱倉庫）で起こる。

大正六年（一九一七）五月五日、午後四時五五分頃、明治二五年に開設された、東京倉庫大阪支店芦分事務所構内の倉庫で入庫荷役中、木樽に入った塩素酸ソーダが擦過により発火、急いで庫外へ運び出す途中、誤って取り落として大火災を発生、庫内の貨物に燃え移った。倉庫には特別危険物が保管され充滿していたので、庫内はたちまち火の海と化した。やがて突然凄まじい大音響と共に、屋根と壁を空中高く

吹き飛ばし、その瞬間、猛火は隣接の倉庫に次々に燃え移り、ここでもアルコール・ベンゾールなどの化学薬品に引火、より強烈な爆発を引き起こす。爆音は、神戸・奈良・京都・高松辺りに達したという。翌六日の大阪朝日新聞は、「音響十数里に達す。奈良にては大砲の如く強く響き渡り、戸・障子に振動を与えたれば、市民は一時、地震かと驚きたり」と報じた。

構内三四棟の倉庫、東側の道路を隔てた芦分尋常小学校、工場、民家十数戸へと延焼し、翌午前一時三〇分に至ってようやく鎮火。その他、北側に在った摂津製油（現在マンション群になっている所）と周辺の工場・家屋に大きな被害を与えた。延焼を被った芦分小学校は、一棟も残さず全焼、校舎を失った芦分分校は、第二西野田尋常小学校（現・野田小学校）の講堂を借用して急場を凌いだ。

倉庫社長・三菱の岩崎小弥太氏は七日来阪、死傷者への弔慰金、公有物の復旧費用として、池上大阪市長に金百万円（現在の八十〇億円に相当）を差し出している。

この事故は、当時、急増しつつあった化学工業関係危険品貨物の取り扱いについて、倉庫業界だけでなく、広く関係業界に幾多の教訓を残すことになった。

### 被害状況

- ・ 人的被害 死者四三名 負傷者五八三名（うち重傷五四名）
- ・ 建物の焼失 芦分校・その他工場、倉庫、民家など七三カ所
- ・ 建物の損壊 大阪水上警察署・大阪電燈会社安治川発電所・摂津製油株・日本アスベスト株、その他周辺の工場、倉庫、施設・

民家など八〇カ所。小破損家屋数千  
 ・船の損害 全焼八隻、沈没八隻、破損三四隻、船体・荷物の損  
 害約六万円

・被害金額 貨物の損害約四〇〇万円。周辺被災家屋の被害をあ  
 わせると一千万円以上になると想像された(『大阪朝日新聞』

大正六・五・九 による)



『まちに住まう』(大阪市 一九八九)  
 附图「近代都市の構築」より  
 大正一〇年代の内容

### 芦分小学校跡碑

芦分校は明治6(1873)年創立、福島区では最古の小学校。昭和17年(1942)に野田国民学校に統合。野田6丁目(建設局野田工営所内)に碑がある。



旧大阪市立芦分小学校同窓会が、昭和五八年(一九八三)に碑の建立とともに発行した記念誌(『芦分』)に、印象に残る出来事として東京倉庫爆発を挙げ、数名の方が自身の体験を生々しく書かれている。爆発時に馬もろ共、荷車と人が、天空高く吹き上げられるのを見た人等。それらの記事の内、大正五年に卒業された大西勝次郎氏の手記を次に紹介する。

「大正六年五月五日の午后五時ごろ、私は縁側(安治川上通二丁目)に出て、安治川の方を見ていました。突然真黒な煙が川面に映った瞬間大爆音が聞えました。私は直に表の道路に出て、富島渡し辺まで走って行きましたが又爆発がありましたので直ぐ家に引返しました。しばらくすると、自動車で怪我人を長谷川病院(船津橋の川下)へ次々と送られて行きました。やがて消防ポンプ車がやってきました。この車は蒸気力で水を出し消火するポンプ車で、火事のたびに火をたき出動するのです。自力では走れませんが、車の前に長い綱をつけ、大人や子供が引っばります。私も綱を引っばって行きました。母親が走ってきて伯母の所へ避難せよとやかましく申します。野田戎神社近くの伯母の家へ避難しました。

翌日、聞いた処によると、芦分校の筋向い側の東京倉庫(現三菱倉庫)で化学薬品の取り扱いミスで爆発したとのことでした。勿論芦分校は全焼です。当時倉庫裏側は安治川より引込んだ幅の狭い川がありました。倉庫の川向い(西九条側)には銭湯があり、爆風やコンクリートの破片で、裸体の人が沢山負傷しました。(後略)」

爆発事故のあった三菱倉庫大阪事務センターの跡地は、平成元年竣

工の、色調・形状もまったく同じ二階建てオフィスビルが二棟並んでいる。北側が「大阪ダイヤビル」で、南側が「新光大阪センタービル」、ビル四〜八階の中層には、両ビル共、巨大コンピュータールームが有り、情報処理データで証券事務代行の頭脳を掌っている。

#### 参考文献

『新修大阪市史 第六巻』大阪府 一九九四

『創立一〇〇周年記念誌』大阪府立野田小学校 二〇〇三

### 附・枚方市陸軍禁野弾薬庫爆発

昭和一四年（一九三九）三月一日（木）午後二時四五分、枚方市にある陸軍禁野弾薬庫で爆発事故が発生した。二九回の爆発で三日間燃え続け、死亡九四名、重軽傷者六〇六名、近辺の地区で全半焼五一九戸、損壊三〇二戸の悲惨な事故となった。

当時、東淀川区（のち大淀区から現・北区になる）豊崎東通二丁目に住んでいた私は、満五才と一カ月。幼稚園から帰って家に居たが、何回か遠くからの爆発音が聞こえ、戸外での人声が騒がしくなったので表に出た。左右長屋の細い路地に、家に居た殆どの人が出て、東を向いて声高にお喋りしていた。東方五、六〇メートル先には東海道線の高架があり、そこだけが大阪駅と淀川の堤防間で、唯一コンクリートでなく、下部が枕木を約五〇センチ間隔に立てて柵にした、裾広がりの土手になっていた。

高架の向こう、やや左に遠く約二〇キロ先の上空に、当日は風が少

なく、ほぼ垂直に立ち登る黒煙が見え、何だろうと、人々が分からない事態の出現に騒いでいたのだと思う。

大爆発音は、京阪神はおろか、名古屋まで届いたといわれる。

この日、同弾薬庫では、日華事変の戦場・満州から送られてきた戦利品の弾薬から火薬を取り出す脱薬作業が行われていた。弾体と信管の取り付け部分を木槌で叩いて外す作業中、一発だけ堅くて取れないので、最後に回し、それを強く叩いたはずみに爆発して、天井をブチ抜いた。火の粉がこぼれていた火薬に引火して火事になり、傍の焼夷弾が飛び出した。

何万、何十万の砲弾、ダイナマイトが誘爆する度に大地が揺れ、空は赤い炎と黒煙の渦、四方八方乱れ飛ぶ火の玉と鉄片・木片・砂塵。息の詰まる煙硝の悪臭。血に染め汚れた顔の男女が座布団、莫塵を頭に覆って思い思いの方向へと逃げたが、道は被災者でいっぱいだった。救援作業中にも誘爆発があり、次々犠牲者が出、混乱を極めた。しかし、軍は原因について一切沈黙を守ったまま説明はなく、戦後関係者の証言で判明した。

以上は、八〇年前に起った惨事の次第である。関係者はじめ当時一千万人以上いたであろう爆発音を直接聞いた人は、昭和九年（一九三四）生まれの私より年長で、今では少なくなりつつある。

現地、陸軍禁野弾薬庫址は、現在、中宮団地と生まれ変わっている。

#### 参考文献

『実記・百年の大阪』読売新聞大阪本社社会部編 朋興社 一九八七

## 石畳が敷かれた長屋の物語

末廣 訂

淀川大橋から野田阪神駅に向かって中海老江交差点から国道二号線を少し入った一角（海老江七丁目一一）に昭和初期にできた石畳が敷かれた道と軒下に銅版が貼られた家並みがある。昔風の調和がとれた家並みと石畳が敷かれた特異な環境を作り上げており、何時しか「海老江の芦屋」とか「海老江の堀江」とか呼ばれたことがある。

『会報第十一号』で岡倉さんが区内全般にわたる長屋についての所見と現状で調査した結果をまとめ、「福島区内の長屋についての所見と現状」という報告文を出された。只残念なことは、今回我々研究会で初めての試みだが、長屋調査のベースになる基礎数字がないため、どの地区がどのように変っているのか、また長屋軒数がどう減ったのか、比較するものがない。実際に歩いてみて、昔はこの通りが長屋筋であったのが、一軒一軒が独立した三階建てになっている場所が多い。一方、長屋の建物も長年の風雪からの痛みが激しく、また空き家になっている長屋も多い。

五・六年前、季刊誌『大阪春秋』から話があり、海老江「石畳路地」の長屋を調べた当時のデータがあり、当時の住人の方からいろいろお聞きした苦労話を再現したい。

この一角の長屋は、昭和の初め、田園地帯であった海老江にも産業（特に中津運河沿いに工場ができた）に波が押し寄せ、当時大阪の財

閥「吉本家」が国道筋に高級住宅地として五〇軒ほどのまちづくりを企画したと「石畳保存会の趣意書」に記されている。昭和の初めの平和な時代から先の大戦の戦火を切り抜けて半世紀以上、古風な面影のある街並みに時代の波がきて、近代設備の導入（ガス、水道、下水道）がはじまった。

昭和一八年の電電公社による「鉄筋コンクリート柱」建替え工事がはじまり、狭小の路地に超重量のトラックや運搬車の往来で、石畳約一九〇枚の内二〇枚が使用不能にまで砕石された。しかし、当時大半の住民は賃借居住のため、何らの抗議も損害補償を要求せず、公社の一方的な工事に只々黙認せざるを得なかった。

一方、同五一年頃からガス、下水道等の地下工事が始まると相まって、家主が相続税の支払い等の関連でこの一角を物納したため、家主が変わって以後、これらの復旧工事や付帯費用は借家人各自の負担となった。その際、全面復旧工事を望む声があり、関連する世帯三六戸が集まり、協議した結果、全員異議なく復旧工事をする事になった。

そして、復旧工事に必要な経費について、今までの費用の補償をお願いする要望書を作成し、復旧予算約百万円の内、約四割を公社や関連する会社からいただき、残り金額を二七世帯で負担した。それと同時にこれを記念して「石畳保存自治会」を結成し、内規を設け、価値ある環境を維持していくことを決めた。時に昭和五一年一〇月一五日で、「ゆずりあえ、力をあわせて、人の世繁栄え」という標語が生まれた。

以後、連綿とこの精神が引き継がれ現在に至っているが、その後の

後日談としてお住まいの方からお聞きした話がある。

一つは、家主が物納した後、借家人が買い取って持ち家となった一角と、月々まだ借家人として家賃を支払っている一角があり、最近、持ち家の一面から風味のある木造建築をつぶして、マンションが建っていること。二つめは、持ち家と借家が混在し、しかも、石畳みの道は旧家主にまだ権利があり、私道となっているため、駐車違反や自治会の看板が撤去されることになった、とのこと。昭和五十一年に「石畳保存会」が作成した「規定」の立て看板も撤去するも、お聞きした家に大切に保管されており、住民の愛着心が残っているのを発見した。一度、昔の香りが残る貴重な石畳のある長屋、路地を訪問していただければありがたいです。

参考 『大阪春秋 第一五〇号』二〇一三 所収

末廣執筆「海老江「石畳路地」と歴史の移り変わり」



海老江7丁目の石畳の路地

## 福島区の近代から古代まで

服部静尚

「私たちの住んでいるこの福島区の辺りは、昔、海の下だった」と、小さい頃に教えられました。昔と言ってもいつ頃のことか？いつから人が住むようになったのか？この答えが、最近になって明らかになってきています。新しくビルなどの施設を建設する際に、「文化財保護法」に基づき発掘調査がされ、その成果なのです。もちろん古文書や伝承・地名などにもこれを考える材料があります。

ここでは、そのような史料・資料をたどって福島区の近代から古代までを覗くのですが、近代から古代へ遡っていきましょう。

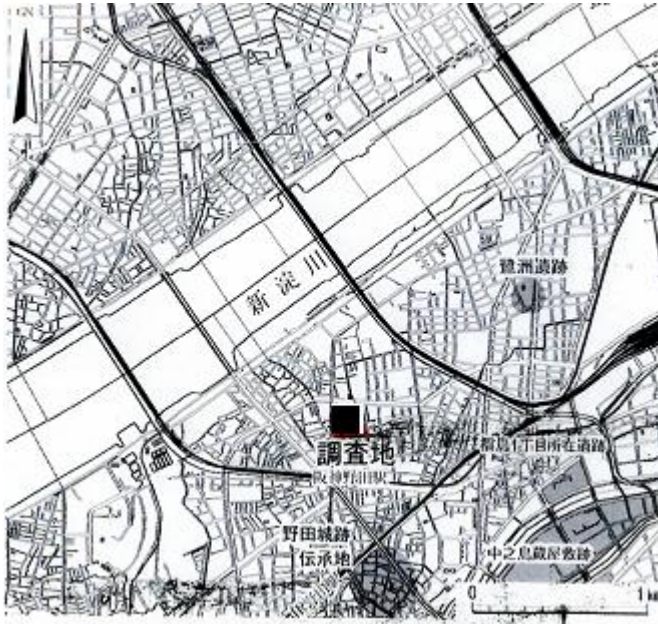
### 一 明治時代

(図1)をご覧ください。明治一八年(一八八五)の地図には新淀川がありません。この年、未曾有の豪雨による大洪水が起きて、約三〇万人が被災しました。これを契機に、明治三十一年から四十二年にかけて約一二年の歳月をかけて、旧中津川を新淀川に付け替えされたのです。(図1)(図2)を見ると、新淀川によって海老江村集落の北側がほとんど切り取られてしまったことが判ります。

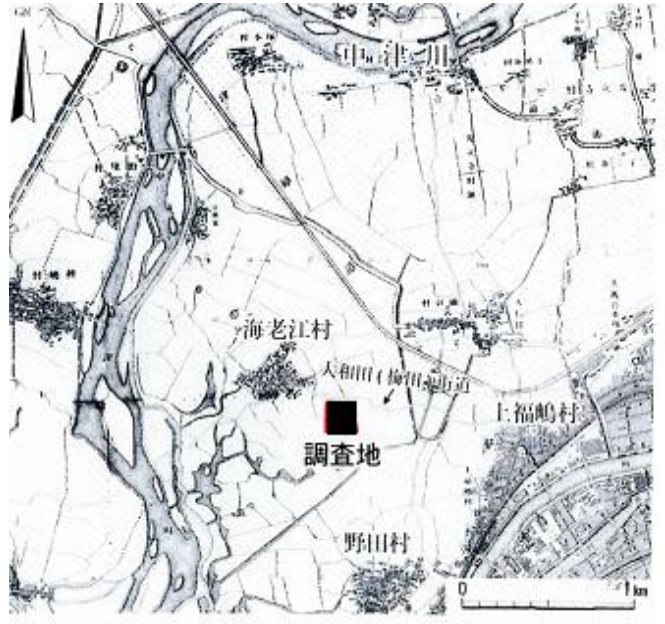
### 二 江戸時代—大仁村にあった石棺

寛政五年(一七九三)京町堀で生まれ、現在の北区・福島区を遊び場として育った、あかつきかねなる 晁鐘成は、だいに「大仁村(現在の福島区と北区の境、





(図2) 現在の地図



(図1) 明治18年の地図 (注4)

福島区側が浦江、北区側が大仁)の西の方に古松が一株あって、そこに小さな祠(ほこら)―石造の宮の屋根のように見えて、残りは地中に埋まっている―が祀まつってあり、大仁の墳つかと伝わっている。この墳地は今、浦江村に属する。大仁というとこれは昔の(推古紀から孝徳紀までの)位階だから、大仁の位に除せられた人の墓ではないか。孝徳紀に薄葬令が出されているが、この令で定める大仁小仁の墓寸法とこの塚はよく合致している(注1)と伝えていいる。

この大仁の墳は後に浦江の素戔すさの鳴尊神社へ移設されたようですが、残念ながら現在は行方不明です。

### 三 戦国時代―野田福島城を拠点に信長と戦った三好一族

天野忠幸氏(注2)によると、元亀元年(一五七〇)に起きた野田福島戦の戦いで、野田福島に陣取る三好三人衆が、足利義昭・織田信長らに勝利する。「摂州の中嶋の内、野田福嶋という所があって、西は大海(大阪湾)で、淡路および西国へ舟で自由に往来できる。北南東には、淀川があって、里の周りは沼田だ(敵が攻め込み難い)。こんな(陣取るに最適な)所は希まれである。」と、当時の人は伝えていいる。

### 四 室町時代―私たちが知っている地名があらわれる

(一) 東淀川区にある崇禪寺(そうぜん)は、嘉吉元年(一四四一)の嘉吉の乱で没した足利義教の菩提(ぼだい)を弔(とむら)うために建立されたのですが、その際に広大な寺領を寄進されます。寛正二年(一四六一)に作られた中島

崇禪寺寺領目録（注3）が現存し、そこには北区の曾根崎・埋田（現在の梅田）と並んで、なじみの呼称が田畑地名や隣接地名としてあらわれます。

◆野田村―中江、大野、江成、大開

◆福島村―鷺島、大二（又は大仁）、埋田、曾根崎、今開、亀甲

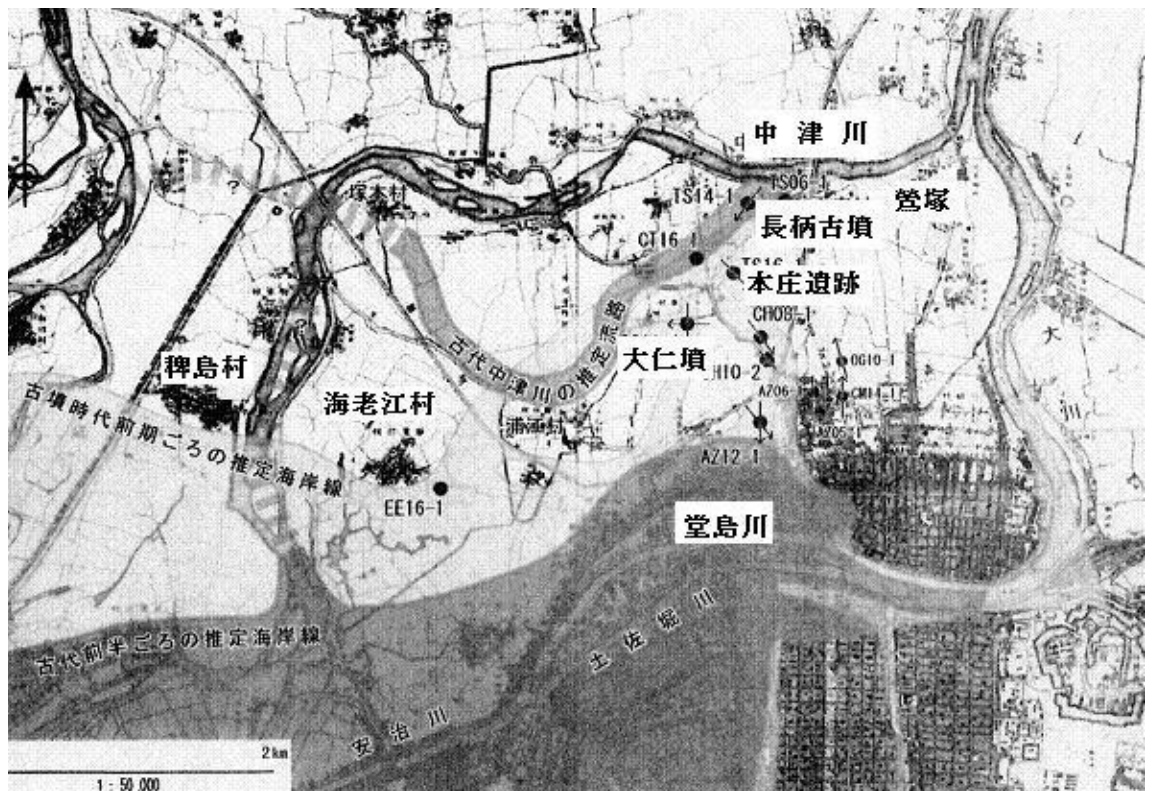
中江・大野・江成・今開・亀甲などは昭和の住居表示制度で消えた地名です。

王仁の「王」が「大」に転じて大仁となった、元々は王仁だったと言うまことしやかな説がありますが、古文書からは王仁地名は出てきません。室町時代には既に大仁もしくは大二と表記しているのです、これはワニとは読めません。元々の地名が大仁であったようです。

（二）海老江地区で新しくマンションが建った地点での発掘調査（注4）によると、この辺りは古墳時代から陸地化が始まり、室町時代の一五〜一六世紀には本格的な（田畑の）開発がなされたようです。そこから排水用と考えられる幅三メートルの南北大溝が発見されました。この耕地は近代まで続き、スイカ・カボチャ・瓜（メロン）などが栽培されていたようです。

### 五 古墳時代から古代―多くの古墳が造られた

大阪文化財研究所の最新の報告（注5）によると、古墳時代の海岸線（大川〜淀川間）は（図3）のように推定されています。「明治の



地図には）中津川と堂島川に挟まれた低地には、周囲の田畑区画と不調和な帯状の区画が、本庄村の西側から幅二百メートル内外で西南西

（図3）古墳時代～古代の中津川流路」と海岸線

（注5）

から南西に向かうのが読み取られる。この帯状の区画はゆるく蛇行し、浦江村の北側で屈曲して北西に向きを変え、塚本村の南まで追跡できる。(中略、これを)出土遺物から古代の中津川流路と推定した。」とのことです。

長柄古墳、鶯塚、本庄村の小寺塚、本庄出土の家屋形埴輪、大仁の墳などを地図上で確認すると、古墳時代から七世紀中葉・孝徳期の難波宮の時代、この辺りは古墳が並ぶ地帯であったようです。

尚、大阪文化財研究所の趙哲済氏にお話をうかがったのですが、(図3)の古墳時代の海岸を、丁度明治の地図で言うところと海老江村や稗島村の集落に沿って推定されたようです。そうすると海老江村の集落中心地は古墳時代から、人々が住む地域だった可能性がありそうです。

(注1)『摂津名所図会』暁鐘成、安政年間(一九世紀中頃)より意約。

(注2)当会主催の天野忠幸氏講演「野田福島の戦いとその意義―信長の前に立ちはだかった三好一族―」二〇一八年七月二八日開催。

(注3)『中島崇禪寺領目録』二〇〇八年三月発行、大阪市史編纂所編

(注4)「淀川河口域の耕地開発」大庭重信、二〇一七年四月発行『葦火

第一八五号』所収。(図1)(図2)はこの論考所載のもの。

(注5)「大阪海岸低地における古地理の変遷」趙哲済・中条武司、『ヒストリア 第二六四号』二〇一七年発行に所収。(図3)は、明治二〇

年製地図(うすく見えている部分)の上に、古代の中津川の流路と、古代の海岸線を上書きしたものです。

## 福島まち歩きガイドブック作成の記録

大垣禎秀・荻田善彦・森本棟夫

平成二九年三月に福島区歴史研究会福島地区の仲間三名で飲食の時に、地元限定した散策ガイドマップを作ろうと話合い、楽しいひとときを過ごしました。地図の範囲は私達の住んでいる福島区の東端、福島一〜八丁目の福島地区に限定し、表題は『「福島村」小さな小さな歴史まち歩き』としよう、地図に表記する対象は多くて二〇ヶ所程度かとスタートしました。

さて、六月にはスポンサーの承認もいただき本格的に作業を開始。第一の山場は、地図に表記する対象の選定です。なんと一〇〇ヶ所以上の候補地の出現です、取捨選択に悩み抜き、ままとよ、全部記載しようとして、マップよりガイドブックとになる。

第二の山場は、データを整理するにあたり芋づる的に増大する候補地、何とか一六二項目で打ち止めをはかり一方で印刷物として発表するには正確な裏付けが必要と、三名で協力し手分けして写真を撮りに出かける日、ある日は古地図を求め図書館へ、一日一件の資料作成と確認作業の日々が続きました。

第三の山場は、まち歩きに使い易いようとの考えより、本体はB5版とし、B4版縦長地図を綴じ込むことにしました。その小さな地図に多数の項目ナンバーと正確な落とし込み等々、そのチェックの繰り返し、一方で色合い・フォント・文字の大きさ等々全体のデザインな

ど、考えを整理する事項が膨大で、素人の私達には大変でした。

出来てしまえばちよつと変なガイドブックとなりました、何故なら一冊に表現しているのはコラム欄数ヶ所を除き氷山の一角、頂上(項目)のみです、手にしたひとは「これは何だ」と思うでしょう。

四苦八苦の末、生まれたガイドブックですが、作成中、知っているようで実は知らなかった事の発見。歴史は時を越え、蜘蛛の巣のように連鎖していること。うわさで聞いていた事の資料の出現など。今まで経験したことのない喜びもありました。

四月初旬には一千部印刷完了、地域関係団体・小学校二校にと広く配布、評判よく追加要望もあり、現在は実際のまち歩きに参加者配付用も残りあとわずかです。

今回作成に当たりご協力いただいた多くの方々に深く感謝。特に的確で可愛い表紙(下)のイラストを引き受けていただいた、大阪府立西野田工科高等学校工業デザイン系の生徒さんには敬意を表します。



## 福島地区「ふれあい祭り」ミニパネル展

萩田善彦

平成三〇年一〇月八日(月・祝)、福島小学校にて毎年秋に開催される、「ふれあい祭りー異世代交流イベントー」(福島地区活動協議会主催)に福島区歴史研究会として三度目の出展をしました。

このお祭りは、食と遊びを通じ子供から大人まで楽しめるイベントです、校庭での喫茶・焼きソバ・焼き鳥等、講堂での催しと、地域各種団体のよる多彩なお祭りです。平成三〇年の展示内容は四月に出版した、『「福島村」小さな小さな歴史まち歩き』の拡大版による紹介展示です。

パネルボードの見出しは例年通り「ふるさと福島」とし、ガイドブックの拡大版地図を中心に貼り付け、コラム欄に表記した主な史跡のページを周囲に貼り付けテープで地図と結びました。

特に今回はガイドブックの「名所・史跡・想いで歴史案内一覧表」には、名称・時代・ミニガイドを記載し、地図にナンバーを落とし込んであるものの、詳細の解らない項目の裏付け資料をプリントして貼り付けて、展示の充実を図りました。

開催日は、近年の天候不順で一日遅れの予備日となり、当日は曇り空、穏やかで例年通りの人出、フードコーナーは早々に完売する賑わいです。

当会の展示ボードにも多くの方々の見学がありました。熱心にご覧

の方にはガイドブックを進呈しました。

印象に残るのは「最近一家で福島に引越して来ました、このガイドブックでの散歩が楽しみです」と言われた家族の方です。

又、タブレットで熱心に撮影されていた女性の方は、「私も福島区の町案内をしています」とのこと、後日判明した事ですが、福島区役所の未来わがまち会議主催の十一月十七日開催「ふくしま魅力探検」関係者の方よりガイドブックの要望があり、多分この方であったと思います。

今回の出展は、地域の方々に「ふるさと福島」を慈しみ、暮らしていただけたらとの思いは届けられたと自負していますが、反省点もあります。

福島小学校は市内で一、二かと思われる校庭の狭い学校ですが、やはり屋外ではパネルボード二枚（畳二枚分）に主にA4版資料の貼り付けでは接近しないと内容が解り難いし地味です。

展示資料のサイズを大きくして、パネルを増やせる場所の確保を今後めざします

出展スタッフ…大垣禎秀・荻田善彦・森本棟夫



## 淀川大橋改修工事第二回見学会

### —大阪大空襲の銃弾痕を見る—

林 俊二

平成三〇年四月に第一回の見学会を行ない、橋梁の一部に残る戦時中の空襲の際の機関銃掃射による銃弾痕を見た。撤去した廃材の一部を福島区歴史研究会で頂き、福島図書館で展示している。区役所でも貰い受け、五階で展示している（『会報 第十一号参照』）。

七ヶ月後、別の場所にある銃弾痕の見学について国土交通省近畿地方整備局大阪国道事務所からお声が掛り、希望者を募り、十一月三日に実現した。

当日は好天の秋空で、八名（一名は当日欠席）の会員が参加した。朝九時に大阪国道事務所で集合、見学に先立ち国道二号淀川大橋床版取替他工事の概要の説明を受けた。

#### ◇淀川大橋の概要

- ・ 起工・竣工 起工・大正一三年一〇月 竣工・大正一五年八月
- ・ 橋の長さ 七二四・五一六m
- ・ 橋梁形式 (中央径間) トラス橋

(側径間) 鉸桁橋（両岸から中央部トラス橋までの間）

#### ◇淀川大橋の構造

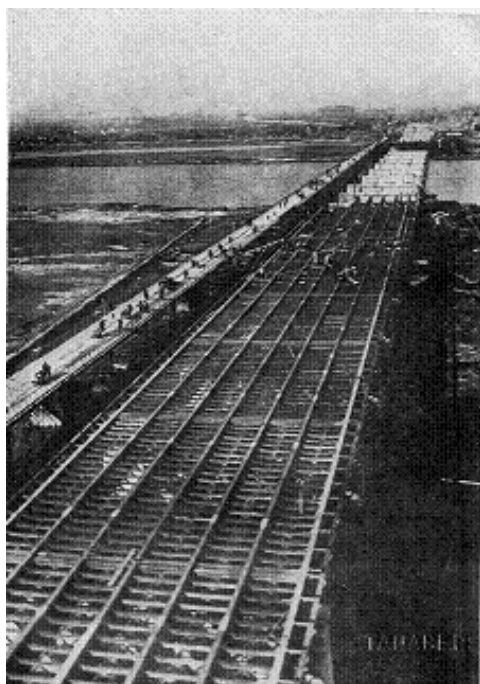
- ・ 橋脚が川の中に立って（二九本）、その上の鉸桁を支え、その上に床

版を載せて、その床版の上を舗装して車や人が通る。

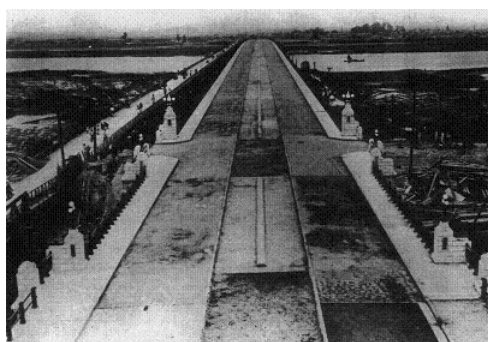
#### ◇淀川大橋の歴史

- ・施工主体 大阪府
- ・供用の開始 大正一五年（一九二六）一月
- ・関東大震災（大正一二年）の直後で、地震に強い橋梁を施工
- ・大阪第一の長大橋とされる
- ・竣工翌年から昭和五〇年まで路面電車（阪神国道線）が運行

・大阪大空襲の際、米軍B29の爆撃と戦闘機による機銃掃射で被害を受ける



淀川大橋鋼桁架設工事  
『大阪府施行阪神国道淀川大橋  
工事概要』大阪府 1926 より



竣工シタル淀川大橋ノ正面  
『阪神国道竣工記念写真帖』  
大阪府 1927 より

#### ◇老朽化の状況

・平成二五年の定期点検で早期措置段階まで劣化が進んでいることが判明。

・床版のコンクリートに「浮き」が見られる。

・コンクリートの鉄筋が露出して剥離が見られる。

・鋼板の橋桁が腐食、鋼材にも亀裂等の経年劣化。

#### ◇工事の内容

・劣化したコンクリート床版を撤去して、新しい鋼床版に取り替え。

・コンクリート床版は約一万二千トンもあり、鋼床版は約四千七百

トンで、重量は約六〇%も軽減される。

・重量軽減は橋脚や橋桁への負担が少なくなり、橋の寿命が延びる。

・工事は三期に分かれ、二〇一七年八月から二〇二〇年三月まで二

年八ヶ月である。今回見た箇所は上流側で、二〇一九年三月まで

は見学できる。

監督官の説明の後、現場見学となり、前回同様各自ヘルメットなど防護器具を着用して、説明者の方の後につき、約一時間案内していた。だ。

見学コースに入って直ぐに、コンクリート床版を撤去した後に、大きな鋼床版をクレーン車で吊り上げ、嵌め込む様子を見ることができたが、数分間で完了したのには驚いた。

階段を降り、橋桁部には空襲の際の機銃掃射で穴が空いている様が生々しく三ヶ所残っていたが、この箇所は、戦後の補修が良かったの

で、このまま残すとの話だった。



銃弾痕



私自身、子どもの頃の疎開先(愛媛県)で米軍機による機銃操縦を見知っているので、昔を思い出した。

橋の上にもどって記念写真を撮り、解散した。

案内の方々だけでなく、現場で作業をしていた方々、皆さんに親切に対応していただきました。感謝いたします。

参考 大阪国道事務所HP

<http://www.kkr.mlit.go.jp/osaka/kanri/yodogawa/index.html>

### 淀川大橋の命名

『大阪府施行阪神国道淀川大橋工事概要』

(大阪府 一九二六) より

#### 二、橋名ノ改称

本橋ハ西成大橋ノ架替ナルヲ以テ其ノ旧名ヲ襲フヘキ筋合ナルモ西成大橋ナル名称ハ其ノ架橋當時ニ於ケル郡名ニ因ミタルモノト認メラレ大阪市ニ編入セラレタル今日ニ於テハ不適當ナルヲ以テ其ノ河川名を採用シ即チ淀川大橋ト命名シタルモノナリ

(注) 大正一四年(一九二五)四月、西成郡全域が大阪市に編入され、淀川大橋は西淀川区域に入る。



淀川大橋の銃弾痕の展示  
(福島区役所5階)

## 福島区歴史研究会 2018年下半期の事業

- 展示 「福島区ゆかりの人物」 5.14～9.28 会場・福島区役所  
 展示 「田辺聖子の世界—生誕90年、文化勲章受章10年—」 7.10～10.31 会場・福島図書館  
 セミナー 「野田城・福島城の戦いとその意義」 7.28 講師・天野忠幸氏  
**『福島区歴史研究会会報 第11号』発行 9月**  
 セミナー 「堀田道甫とその娘」 9.30 台風接近のため中止  
 展示 「「道」は続く—松下幸之助創業100年—」 10.9～2019.3.29 会場・福島区役所  
 福島区民まつり 10.20 会場・下福島公園 展示・クイズなど

古い写真を探しています  
 お手元のアルバムに  
 災害や今はない建物  
 などが写っているも  
 のがあればご提供く  
 ださい



「まちけん参上」に  
 南條会員出演  
 一〇日一五日、NHKの  
 「まちけん参上」で、南  
 條会員が松下幸之助ゆか  
 りの品など紹介しました。

\*\*\*\*\*

## 2018年下半期の活動記録

- 7.6 展示替え(図書館)
- 7.19 企画会議
- 7.28 セミナー懇親会
- 7.30 女性会 史跡案内 講師 末廣会長 会場・区役所
- 9.20 企画会議
- 10.5 展示替え(区役所)
- 10.8 福島ふれあいまつり 会場・福島小学校
- 10.15 女性会「福島地区歴史探訪」森本・大垣・荻田会員が案内
- 10.18 企画会議
- 11.2 図書館展示撤去
- 11.15 企画会議
- 11.30 淀川大橋工事第2回見学
- 12.12 「戦争を語る」海老江東小学校6年生対象 講師・末廣会長ほか
- 12.20 企画会議

### ●田辺聖子記念碑建立に向けての活動

- \*\*\*\*\*  
 浦江塾(協力) 7.7 9.1 10.6 11.3 12.1

会員の原稿を  
 募集します！  
 福島区の記録を  
 (レミニント)

ホームページ <http://o-fukushima.com/rekishi/top.htm>  
 (会報バックナンバーも掲載)

(印刷：谷口印刷紙業)